

インクルーシブの窓

令和6年2月 富山県教育委員会県立学校課特別支援教育班



インクルーシブ教育推進員の学校訪問日記～その4～



「子どもたちのための日常的な“連携”」

H小学校の特別支援教育コーディネーターは、特別支援学級の担任です。学級の子どもたちが見通しや期待感をもち、学びの喜びを感じながら学校生活を送ってほしいと、複数学年の交流学級の担任と週案（週の授業等の計画案）を交換しています。

そこには、簡単な授業のねらいや必要な持ち物等が記入してあり、週末には短時間の打ち合わせを行っているそうです。週案や打ち合わせの内容で子どもたちに必要な情報は、それぞれの学級の子どもたちに視覚的に分かりやすく伝えられています。交流学級の教室には、一週間の授業等の予定表が掲示してありました。

I小学校の通常の学級（4年生）の算数科の授業。特別支援学級のAさんが参加しています。学習活動の流れが視覚的に示された上で、子どもたちの言語活動が活発に展開されていました。そんな中、指名されたAさんが計算の仕方の説明で言葉に詰まると、何人もの子どもたちがAさんの言いたいことをくんで「付け足したいです。」と手を上げるのです。そして、授業者の先生は、友達の発言がAさんの言いたかったこととずれていないかをAさんに必ず確かめていました。

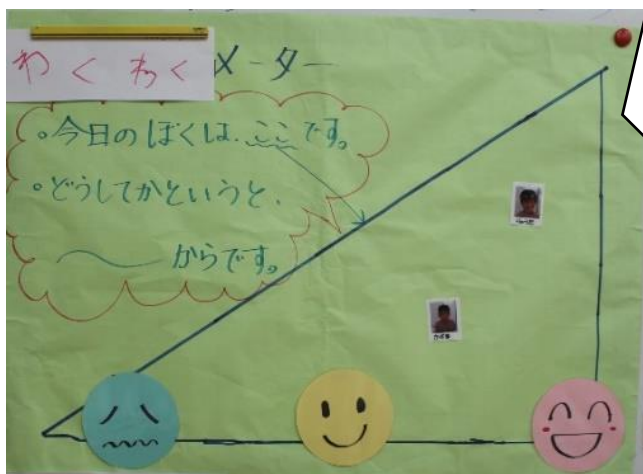
授業後の懇談で、通常の学級の担任は「Aさんにも、学級の子どもたちとのコミュニケーションをたくさん経験してほしい」と話します。普段から、Aさんの学級担任と、学級の子どもたち同士の対話的な学びの在り方について話し合っているそうです。Aさんの学級担任は、「子ども同士が支え合う学級風土が育っていて、Aさんも安心して授業に参加できている」と振り返っていました。



子どもが見通しをもち、主体的に学校生活を送ることを願って、各学校では教員同士の日常的な情報交換が大切にされています。気がかりな子どもの支援にあたる教職員間の連携に努めている学校が増えてきています。休み時間などに、多くの教員がスタディ・メイトに積極的に声をかけ、子どもの良い姿を聞き取ろうとしている中学校。子どものニーズに応じた支援の在り方について、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、スタディ・メイトとの定期的な打ち合わせの時間を設けている小学校。

年度末を迎えていますが、引き続き、教職員の日ごろの連携を心がけ、子どもを真ん中に置いた支援体制を整えていきましょう。

学校で出会った素敵な教材③



活動や授業の終わりに「振り返りメーター」として使っています。振り返ってほしい内容に応じて、「なかよし」「やさしさ」「がんばり」などに変わっています。自分の顔写真を貼り、感情の度合を表現します。話し方の例にならって、気持ちの理由を言葉や文で伝えようとする子どももいます。自分の内面を客観的に見つめるきっかけになっています。

《お知らせ》

『インクルーシブの窓』
バックナンバーはこちら！



なお、富山県公式 SNS X
（旧 Twitter）に登録すると、最新号のお知らせが届きます。